

令和7年度学校評価表

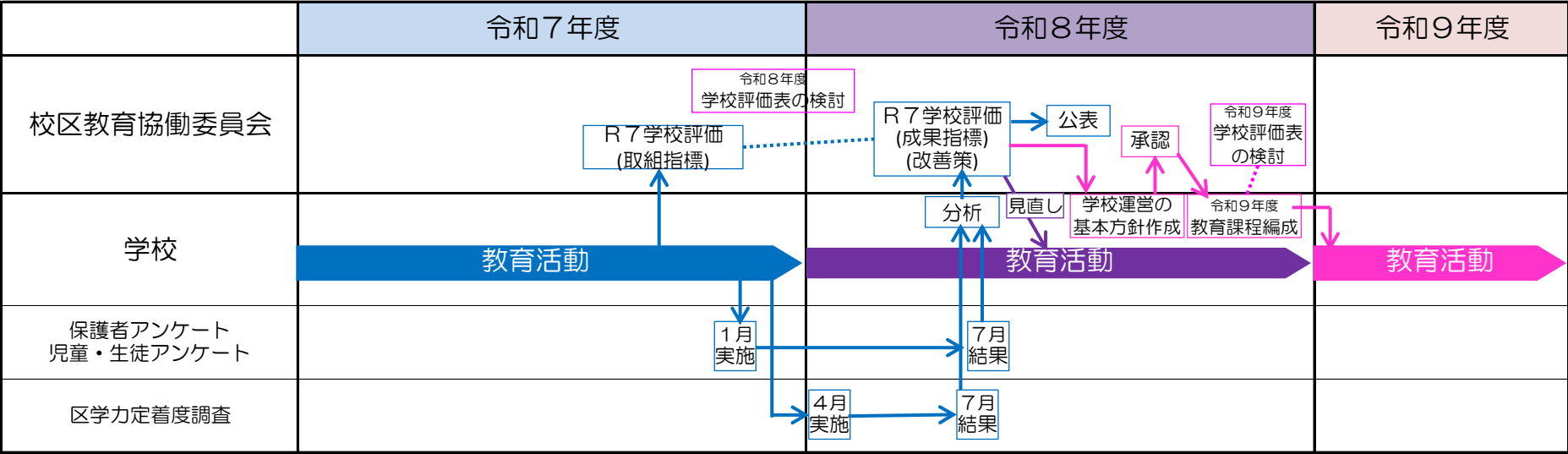
品川区立城南小学校	校長	三浦 公平
城南小学校校区教育協働委員会	委員長	板橋 雅則

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立城南小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		「自信をもってよく学ぶ子」を育成する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで「学習することが楽しい」と回答する割合を80%以上にする。	肯定的評価が88%で、成果指標を達成した。	A	・児童の実態を踏まえ、指導助手やICTを効果的に活用しながら「個に応じた指導」の充実を図る。 ・各学年「地域の人々との交流をとおして、城南地域の歴史や文化に親しむ」をテーマとして、計画的に探究的な学習を実施する。
	「指導の個別化」と「学習の個性化」を踏まえ、「個に応じた指導」の充実を図る。	・3～6年生の算数科で、習熟度別指導を実施した。 ・授業の中で、子どもが課題解決方法を選択できるような授業を実施した。 ・品川地域未来塾を年間36回実施した。 ・児童一人一人の学習状況やつまずきを担任が丁寧に把握し、個別最適な課題設定や支援を行った。	B	
	教師と児童の関わり合いや児童同士の関わり合い、実習・実験、体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶ機会の充実を図る。	・1年:おまつりごっこ、保幼小交流、昔遊び など ・2年:おまつりごっこ、町たんけん など ・3年:インターナショナルスクールとの交流、自転車安全教室、CAP など ・4年:区内一斉防災訓練、TGG、茶道教室 など ・5年:元食肉市場職員による講話、スチューデントシティ、城南幼稚園との交流 など ・6年:ドリームジョブ、東海道歴史探訪、スマホ安全教室 など	A	
	各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを効果的に活用し、授業の質の向上を図る。	・各教科で、ミライタッチを用いた視覚的な提示やミライシードを使った個別練習を行った。 ・ロイロノートを活用して、学習の振り返りを行った。	A	
	低学年から教科担任制を部分的に導入し、教科指導の専門性をもった教師が多様な教材を活用してより熟練した指導を行うことで、授業の質の向上を図る。	・理科、家庭科は5～6年、図工は2～6年、音楽は全学年、書写・英語は3～4年で教科担任制を実施した。	B	
	「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という問題解決的な活動を発展的に繰り返す探究的な学習を実践する。	・探究的な学習を市民科一貫プランに位置づけ、3年は「国際理解」、4年は「防災」、5年は「環境」、6年「地域貢献」をテーマとして実施した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立城南小学校

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		「みんな仲良く助け合う子」を育成する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで「学校が楽しい」と回答する割合を80%以上にする。	肯定的評価が88%で、成果指標を達成した。	A	・「城南スタンダード」の徹底するとともに、実態に合わせて絶えず見直しをする。 ・市民科授業地区公開講座において講師を招き講演会を実施する。 ・縦割り班の児童同士の関係性がさらに深まるよう市民科活動の取組を見直し、検討する。
	市民科を要として全教育活動を通して、人権課題の正しい理解と認識を深め、差別意識の解消する学習機会の充実を図る。	・全学年で人権標語、5年生が人権ポスターを作成した。 ・3年生は、CAPを実施した。 ・5年生は、元食肉市場職員の講話を聞いた。	B	
	他者対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることができるよう授業の工夫を図る。	・市民科の授業を中心として、対話的で協働的な学びの場を多く取り入れた。	B	
	異学年交流や児童会活動、地域と連携した活動などの充実を図る。	・縦割り班活動を年8回、児童集会を年8回実施した。 ・お祭りごっこ、町たんけん、保幼小交流、インターナショナルスクールとの交流、自転車安全教室、区内一斉防災訓練、東海道歴史探訪などを地域と連携して実施した。	A	
	双方向の生徒指導を行なうとともに、自己選択や自己決定の場や機会を設定する。	・教員が一方的に指導するのではなく、児童からの話を丁寧に聞くことにより、今後の行動目標について一緒に決めることができた。 ・学校のきまりについて代表委員と検討した。	B	

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		「心も体も元気な子」を育成する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで「体育授業が楽しい」と回答する割合を80%以上にする。	肯定的評価が92%で、成果指標を達成した。	A	・運動の日常化を図るために、休み時間の活用の仕方を工夫する。 ・校内研究会では体育科の授業を公開し、授業改善に向けた熟議をするとともに、他教科にも生かしていく。
	児童が楽しさや喜びを感じられるような体育授業の改善を図る。	・「児童が主体的に学ぶ資質・能力を育成する体育授業をデザインする」をテーマに校内研究に取り組み、年4回の研究授業を実施した。 ・一人1回、体育の公開授業を行った。	A	
②	児童アンケートで「健康な生活を送っている」と回答する割合を80%以上にする。	肯定的評価が95%で、成果指標を達成した。	A	
	運動の習慣化を図るために、時間・空間・仲間を確保する環境を整備する。	・休み時間の活動場所・学年を割り振り、子どもたちが遊ぶ機会を創出した。 ・全学年で品川スポーツトライアルに取り組んだ。	B	
	体育科保健領域、市民科など相互を関連させた保健指導の充実を図る。	・毎月、保健だよりを発行した。 ・定期健康診断を年1回、身長・体重測定を年3回実施した。 ・3年生は、歯磨き指導を実施した。 ・6年生は、薬物防止教室を実施した。 ・5年生は、スクールカウンセラーによる全員面談を実施した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめ防止に関すること

重点目標		「いじめは、重大な人権侵害であり、どんな理由があっても、絶対に許されない。」という意識および学校風土を醸成し、未然防止を図る。		
		「いじめは、どの子どもにも、どの学級にも、どの学年でも起こり得る」ことを前提とし、いじめを深刻化させないために、組織的に早期発見・早期対応する。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで「いじめは、どんな理由があっても、絶対に許されない」と回答する割合を90%以上にする。	肯定的評価が97%で、成果指標を達成した。	A	・早期発見のために、「デイケン」の実施率を上げる。 ・いじめが疑われる際には、学校いじめ対策委員会を即時に開催し、情報収集・役割分担・いじめの認知等を早急に行う。
	スクールカウンセラー等の活用やトリプルチェンジの授業を通して、自他相互のコミュニケーションのあり方を学ぶ学習の充実を図る。	・3年生はCAPの授業を実施した。 ・5年生はスクールカウンセラーと全員面談を実施した。 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングを延べ131人が利用した(12/25現在)。 ・トリプルチェンジの授業を年3回実施した。	A	
②	いじめ重大事態を0件とする。	成果指標を達成した。	A	
	「デイケン」「NiCoLi」「いじめDアンケート」「学校風土D調査」などの調査ツールを活用した児童の心や体調の変化を把握するための取組を推進する。	・デイケンを毎日実施した。 ・「NiCoLi」「いじめDアンケート」「学校風土D調査」を年3回実施した。	A	
	週1回以上「学校いじめ対策委員会」を開催し、対応方針や役割分担を決定し、進捗状況等を確認する。	・いじめの疑いがある場合は、学校いじめ対策委員会を開催し、いじめの認知、状況把握、対応方針、役割分担等を行った。 ・週1回、学校いじめ対策委員会を開催し、状況確認を行った。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立城南小学校

評価項目5 ウェルビーイングに関すること

公開

重点目標		誰一人取り残さない教育を実現する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで「自分は大切にされている」と回答する割合を80%以上にする。	肯定的評価が90%で、成果指標を達成した。	A	・不登校児童について、学校から定期的な連絡を行い、継続した支援の充実を図る。 ・専門家や関係機関と連携し、特別支援教室校内委員会で適切な支援方法を検討する。
	多様な学びの場、居場所を確保するとともに、専門家や関係機関と連携した支援体制を構築する。	・スクールカウンセラーによるカウンセリングを延べ131人が利用した。 ・校内別室支援室「ほっとルーム」を13人が利用した。 ・フリースクールを8人が利用した。	B	
	児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導および必要な支援の充実を図る。	・特別支援教育校内委員会を月1回以上実施した。 ・WISCを10名が実施した。 ・特別支援教室を17名、ことばの教室8名が利用した。 ・専門家による訪問相談を年3回実施した。	A	

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成